

地域1

パラメータ適用パターン

該当する地域

中国(5県)、四国(4県)、九州地方(7県)※の都道府県

※H28年熊本地震に伴うパラメータ提供範囲では、青字で書かれたパラメータも適用すること。
適用範囲については、地理院地図(<http://maps.gsi.go.jp/>)

または熊本地震に伴う座標・標高補正パラメータの提供地域確認サイト

(http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/patchjgd/kumamoto_check.html)で確認されたい。

パラメータ補正は表中の番号順に実施し、各補正の出力値を次のパラメータの入力値とすること。
なお、熊本地震に関して、水平座標は別途補正が必要である。

測量時期	基準点の種類と補正に使用するパラメータ	
H25. 4.26	測量時の与点	補正に使用するパラメータ
	電子基準点 電子基準点に準拠した 三角点・基準点	①ジオイド・モデル改定パラメータ ②熊本地震に伴う標高補正パラメータ
	その他	①測量時期の違いによる不整合量補正パラメータ ②ジオイド・モデル改定パラメータ ③熊本地震に伴う標高補正パラメータ
	測量時の与点	補正に使用するパラメータ
	電子基準点 電子基準点に準拠した 三角点・基準点 (新ジオイド・モデルを使用していない 場合)	①ジオイド・モデル改定パラメータ ②熊本地震に伴う標高補正パラメータ
電子基準点 電子基準点に準拠した 三角点・基準点 (新ジオイド・モデルを使用した場合)	①熊本地震に伴う標高補正パラメータ	
その他 (新ジオイド・モデルを使用していない 場合)	①測量時期の違いによる不整合量補正パラメータ ②ジオイド・モデル改定パラメータ ③熊本地震に伴う標高補正パラメータ	
その他 (新ジオイド・モデルを使用した場合)	①測量時期の違いによる不整合量補正パラメータ ②熊本地震に伴う標高補正パラメータ	
H26. 4.1	測量時の与点	補正に使用するパラメータ
	全点	①熊本地震に伴う標高補正パラメータ
H28. 4.16	測量時の与点	補正に使用するパラメータ
	全点	①熊本地震に伴う標高補正パラメータ

今回の標高改定で考慮すべき補正パラメータ

【既存のパラメータ】

- H19年 能登半島地震標高補正
- H19年 中越沖地震標高補正
- H20年 北海道三角点標高改定
- H21年 紀伊半島三角点標高改定
- H22年 東北三角点標高改定
- H23年 東北地方太平洋沖地震 座標及び標高補正

(「H20年 岩手・宮城内陸地震標高補正」は、「H22年 東北三角点標高改定」の補正量と同一のものであるので考慮しない。また、「H19-20 宮古島標高補正」については、今回の標高改定範囲に含まれていないので考慮しない)

【新たに作成するパラメータ】

- 測量時期の違いによる標高不整合補正
長年の地殻変動等による標高変動量の補正。電子基準点に準拠していない基準点等で使用本パラメータを用いて補正することで、旧ジオイド・モデル(日本のジオイド2000)に整合した標高となる。
- ジオイド・モデルの改定に伴う標高補正
ジオイド・モデルの改定に伴う標高の補正
- 測地成果2011への移行に伴う標高不整合補正
測地成果2000から2011に移行した際に生じた中日本での標高不整合の補正
- 電子基準点楕円体高改定に伴う標高補正
H26/4/1の電子基準点楕円体高改定に伴う標高の補正

補正パラメータ適用パターンの選択において必要な情報

【測量地域】

対象とする基準点成果等あるいはその測量の地域(都道府県)

【測量時期】

基準点成果等を求めるために行なった測量の実施時期

【測量の既知点】

基準点成果等を求めるために行なった測量における既知点の種類